



2024 年度 体験活動プログラム 活動報告

体験型活動ワーキンググループ
2025年3月31日

目次

I	体験活動プログラム実施概要.....
II	体験活動プログラム活動報告.....
III	体験活動プログラム活動報告会.....
IV	付録
	・体験活動プログラム概略.....

I 体験活動プログラム実施概要

●概要

学部学生及び大学院学生を対象とし、大学生活とは異なった考え方や発想、行動様式又は価値観と触れ合うための多様な形態と内容のプログラムを提供するものです。

平成 24 年度に「体験活動に関するワーキンググループ」を設置し、平成 24 年度には 176 名が活動に参加、さらに平成 25 年度以降は研究室体験活動プログラムを加え、毎年多くの学生を様々な体験の場へ送り出しています。

●2024 年度体験活動プログラム実施データ

<プログラムの件数および募集人数>

○ 提供プログラム数：90 件、活動実施プログラム数：88 件、募集人数：698 名

区分	プログラム提供件数	プログラム実施件数	募集人数
国内プログラム	58 件(64%)	56 件(63%)	409 名(59%)
海外プログラム	24 件(27%)	24 件(27%)	238 名(34%)
研究室プログラム	8 件(9%)	8 件(10%)	51 名(7%)
全プログラム	90 件(100%)	88 件(100%)	698 名(100%)

<応募、参加状況>

- 全プログラムでの募集人数 698 人に対し、応募者数は 863 名(124%:募集人数比)、応募者のうち、参加者数は 544 名(63%:出願者数比)。
- 国内プログラムは募集人数 409 名に対し、応募者数は 429 名(105%:募集人数比)、応募者のうち、参加者は 289 名(67%:出願者数比)。
- 海外プログラムは募集人数 238 名に対し、応募者数は 386 名(162%:募集人数比)、応募者のうち、参加者は 222 名(58%:出願者数比)。
- 研究室プログラムは募集人数 51 名に対し、応募者数は 48 名(94%:募集人数比)、応募者のうち、参加者は 33 名(69%:出願者数比)。

区分	募集人数	応募者	参加者	不採択者
国内プログラム	409 名	433 名 〈106%〉	289 名 《67%》	140 名 《33%》
海外プログラム	238 名	389 名 〈163%〉	222 名 《58%》	164 名 《42%》
研究室プログラム	51 名	48 名 〈94%〉	33 名 《69%》	15 名 《31%》
全プログラム	698 名	870 名 〈125%〉	544 名 《63%》	319 名 《37%》

〈 〉内は募集人数との比率、《 》内は応募者数との比率

なお、プログラムに応募し、不採択となった者が別のプログラムに応募しているため、応募者数は延べ数を示す。

また、研究室プログラムについては複数の申請が可能となっており、応募者数及び参加者数は延べ数を示し、不採択者数には採択後に参加を辞退した者及び活動中止となったプログラムに参加を予定していた学生の数を含む。

<採択者の属性>

◆男女別内訳

- 参加 544 名の男女別内訳は、男子学生が 287 名(53%)、女子学生が 257 名(47%)。

	男子学生	女子学生	計
参加者の男女別内訳	287 名 (53%)	257 名 (47%)	544 名 (100%)

◆学年別内訳

- 参加者 544 名のうち、学部前期課程学生は 184 名(34%)、学部後期課程学生は 244 名(45%)、大学院学生 116 名 (21%)。
- 参加者 544 名の学年別内訳は、1 年生 51 名(10%)、2 年生 133 名(24%)、3 年生 117 名 (22%)、4 年生 121 名(22%)、5 年生 3 名(0%)、6 年生 3 名(1%)、修士 1 年生 41 名 (8%)、修士 2 年生 39 名 (7%)、博士 1 年生 4 名 (0%)、博士 2 年生 9 名 (2%)、博士 3 年生 7 名 (1%)、博士 4 年生 1 名(0%)、専門職学位 1 年生 5 名 (1%)、専門職学位 2 年生 7 名 (1%)、専門職学位 3 年生 3 名 (1%)。

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計	男子	女子
法			18	26			44	27	17
医			3	6	3	1	13	5	8
工			36	18			54	37	17
文			10	12			22	8	14
理			4	9			13	4	9
農			17	7		2	26	14	12
経済			8	23			31	19	12
教養	51	133	4	13			201	103	98
教育			12	5			17	3	14
薬			5	2			7	4	3
計	51	133	117	121	3	3	428	224	204

教養学部欄の「1 年」、「2 年」の欄は、前期課程の学生を示す。

	M1	M2	D1	D2	D3	D4	P1	P2	P3	計	男子	女子
工学系	13	11	2		1					27	19	8
人文社会	6	2		2						10	3	7
教育学	5				2					7	3	4
法学政治								2	3	5	3	2
経済学	2	5								7	3	4
総合文化	4	2								6	3	3
理学系	1	1		1						3	3	
農学生命	3	4		1						8	4	4
医学系		2		3		1	1	2		9	2	7
薬学系	1	2			1					4	1	3
数理科学												
新領域	1	2	1	2	3					9	4	5
情報理工	1	6	1							8	7	1

情報学環	4	2								6	5	1
公共政策							4	3		7	3	4
計	41	39	4	9	7	1	5	7	3	116	63	53

◆学部前期課程学生の科類別内訳

	文一	文二	文三	理一	理二	理三	計
1年	8	3	13	14	10	3	51
(国内)	3	1	6	8	8		26
(海外)	5	2	5	5	2	3	22
(研究室)			2	1			3
2年	23	12	29	37	28	4	133
(国内)	14	4	17	18	14	1	68
(海外)	8	8	8	15	11	3	53
(研究室)	1		4	4	3		12
計	31	15	42	51	38	7	184

Ⅱ 体験活動プログラム活動報告

国内プログラム名称

ページ数

A1	不登校傾向の子どもたちとの活動から探る新しい学びの形	6
A2	病気のお子様のご家族が滞在される施設でのボランティア活動	6
A3	療育を知ろう	6
A5	小学生向け「考えるもの作り教室」でのティーチャー体験 -木工教室を盛り上げよう！-	7
A6	環境DNAを用いた魚類調査プロジェクト	7
A7	ふじのくにの里山 - 植物と昆虫のつながり	7
A8	長浜曳山まつり 秋の曳山巡行体験事業	8
A9	ポピンズナーサリースクール東大本郷さくらにおける乳幼児保育体験	8
A10	高校魅力化プロジェクト ～課題先進地域の離島・中山間地域における学習支援と課題発見・解決,価値創造～	8
A11	工学系日本語教室でのボランティア	9
A12	能登の里山里海を紡ぐ関係人口創出 ～FSの継続から能登町の復興へ～	9
A13	学術出版の体験的学習	9
A14	再生可能エネルギー系ベンチャー企業でのインターン	10
A15	陶板複製名画美術館における学芸員体験	10
A16	農作物なんて自由自在?? ～植物工場で次世代の食糧生産を考える～	10
A17	町長の秘書業務体験! ～現役首長と向き合う行政の現場～	11
A18	誰も知らない京都を作り出せ! ～東大生しかつけない旅行プラン@KYOTO～	11
A19	「好き」だけで終わらせない! ～自らの手でファッションの未来を創ろう～	11
A20	JICAの国内の現場で国際協力を知る	12
A21	未来を指向する地方自治体の活動への参加	12
A22	気候変動に対応するために「ITによるGX」を考えてみよう	12
A23	笑う東大×学ぶ吉本SDGs人材交換留学 別府市の町おこしを目的とした周遊型謎解きイベントの企画プログラム	13
A24	笑う東大×学ぶ吉本SDGs人材交換留学 オリジナルのアナログゲーム制作・PR体験	13
A25	笑う東大×学ぶ吉本 SDGs人材交換留学「漫才ワークショップ」	13
A26	笑う東大×学ぶ吉本SDGs人材交換留学 芸人×東大生 特別授業in周防大島	14
A27	東大蔵元会の蔵で酒造りを体験しよう	14
A29	岩手県花巻市 Ohはさま! 真夏のぶどう合宿 2024夏	14
A30	どっぷりディープな農業・農村体験(DDNN)	15
A31	紀州アメリカ村で学ぶ、地域の過去と未来を考える	15
A32	駒場IIキャンパス学食を通じた生産現場を学ぶワークショップ	15
A33	伝統工芸木炭生産技術保存会とともに伝統工芸に必要な駿河炭を焼く	16
A34	持続可能なライフスタイルへの変遷を実現するための科学的アプローチに基づくフィールド実践体験	16
A35	伊豆の体験活動 -南伊豆という一地域との連携に学ぶ-	16
A37	ラムサール条約湿地「宍道湖」・「中海」で水環境と生態系保全を考える	17
A38	東大の牧場に行って山羊、豚、牛、馬の世話と乗馬を体験しよう	17
A40	北海道の遺跡博物館における学芸員体験と冬のオホーツク文化体験	17
A41	森の人になろう - 森と暮らす仕事	18
A42	森が社会に貢献する - 持続可能な森づくりへの挑戦 -	18
A43	東大×「街」のない「まち」の地域活性化・観光促進対策とは?	18
A44	森林・水・土砂の長期モニタリング調査体験 ～世界の水文研究を支える100年を全身で感じよう～	19
A45	中世の時代が輝く島根県益田市歴史観光プログラム企画開発プロジェクト	19
A46	帰還困難区域の「街づくり」を考える。-復興に対する多様な「想い」に触れながら-	19
A47	フル・インクルーシブ教育について、実践する大阪の公立小学校で体験的に学ぶ	20
A48	聖地熊野の歴史文化と自然を体験し、地域振興を考える	20
A49	現地で学ぶ石垣島の現在	20
A50	保育園や幼稚園、自治体の子育て支援の取り組みについて知ろう	21
A51	観光地西表島の自然の魅力を存分に堪能し、存分に環境保全の意義について考える	21
A52	花火について学び、花火をデザインする	21
A53	花火について深く学び、花火の魅力を極める	22
A54	暮らしの中で環境に配慮した物質の循環を考える ～京都府亀岡市～	22
A55	起業、事業計画作成に関する講義及びそれらを踏まえたグループワーク	22
A56	未来へ繋ぐ震災伝承	23
A57	増やそう地域を愛する人! 地域資源情報発信事業協働体験	23
A58	「クリケット」を通じて世界を知ろう! ～クリケットを通じた国際交流～	23
A59	中山間地域を見る・感じる・考える ～北海道鷹栖町で、今後の中山間地域・地方創生について考えよう	24
A60	野宿学(雪国編)「雪国でイグルーを自作して一晩過ごしてみよう」	24

海外プログラム名称

ページ数

B1	アラブ首長国連邦の「いま」	25
B2	サウジアラビア プリンセス・ヌーラ大学 国際交流体験活動	25
B3	Sustainable agriculture experience at Organic Farm(USA)	25
B4	シリコンバレーハイテク企業社員の生の声を聞く国際交流体験	26
B5	インドに向けて日本の魅力を発信 一日印学術交流推進活動サポートと学生交流	26
B6	インド工科大学マドラス校での学生交流と文化体験活動 —日本語教育ワークショップ・企業訪問を通して—	26
B7	シンガポールでビジネスを学んでみよう	27
B8	中国・海南島の自然保護区管理を知る	27
B9	英国ロンドン、海外で働くとは	27
B10	台湾を知る、台湾近代史へのご招待	28
B11	オーストラリア最高峰のリハビリ医療(脳挫傷・脊椎損傷)見学・体験	28
B12	中国訪問 + キャンパスツアーと学生交流	28
B13	芸術の都フィレンツェで文化財保護を学ぶ	29
B14	スイスにある国際機関、研究機関、企業等を知る	29
B15	ハーバード大学医学部研究室の訪問・ディスカッション	29
B16	ケニアスタディーツアー ～リアルなアフリカを学び楽しみ考える～	30
B17	シドニーとメルボルンでビジネスを学んでみよう	30
B18	フィリピンで国際協力を考える ～新興国におけるビジネス・政策の現場を訪ねる	30
B19	スウェーデン王立工科大学(KTH)・ケンブリッジ大学での異文化理解体験活動 -学生交流と企業訪問を通して-	31
B20	スタンフォード大学とシリコンバレー体験訪問	31
B21	ベトナムを知れば、日本の将来が見えてくる！ ～ハノイの学生・企業等との交流～	31
B22	Tokyo Oxford Programme of Summer (TOPS 2024)	32
B23	アメリカで仕事をする事の素晴らしさとチャレンジを、アメリカのハートランドであるシカゴと国際都市ワシントン訪問を通して多角的に探ろう	32
B24	ニューヨークで働くこと	

研究室プログラム名称

ページ数

C1	システムデザイン演習:カーボンニュートラル国際海運システムのデザイン	33
C2	みんなで翻刻ソング	33
C3	DO-IT Japan(Diversity, Opportunities, Internetworking and Technology Japan)2024・夏季プログラムへの参加	33
C4	先端的蛍光イメージング技術を用いた脳科学・神経科学研究体験	34
C5	環境調和型技術としての超臨界水を学ぶ	34
C6	いちばん近い演習林で樹木調査を体験しよう	34
C7	「医の知」に触れる—手術とは何か? 体内臓器を探ってみましょう!	35
C8	脳・身体と精神のシステム論的研究への誘い	35

【国内プログラム】

A1. 不登校傾向の子どもたちとの活動から探る新しい学びの形

不登校傾向にある小中学生を対象とした「かまくら ultra プログラム」で、子どもたちが活動に円滑に参加できるようサポートを行った。海のプログラムでは「石／意思」をテーマに、地質や魚介類のミニレクチャーで興味を引き出し、フィールドワークでは安全に配慮しつつ共に発見を楽しんだ。森のプログラムでは黒曜石ナイフ作りなどを通して自然素材や手仕事の魅力を伝えた。自然の中での学びや創作が子どもたちの成長や自己理解を深める貴重な機会であると感じた。

日 程：2024/8月-10月

参加学生：6名

活動場所：神奈川県鎌倉市等

備 考：ULTLA プログラム：

https://ultla.jp/?fbclid=IwY2xjawFozp91eHRuA2F1bQIxMAABHUUa9emPgsXDVRzfqSsG9ZCwHbjvLxDDFudDfz5G8ESPVnJou-1PEEjx0w_aem_FoWZFbcIYbyVfSqfX7HpVA

A2. 病気のお子様のご家族が滞在される施設でのボランティア活動

ドナルド・マクドナルド・ハウスでの活動を通じ、病気の子どもを支える家族の悩みや負担を知ることができた。施設の運営や支援の仕組みを学び、遠方から入院する子どもやその家族の実情に触れたことで、小児科医として診療する際には家族の気持ちにも寄り添う姿勢が重要だと実感した。また、病と向き合う子どもを支える研究に取り組みたいという思いも強まった。

日 程：2024/7月-2025/1月

参加学生：4名

活動場所：東京大学医学部附属病院隣接の東大ハウス

備 考：公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・
ジャパン：<https://www.dmhcj.or.jp/>



東大ハウス

A3. 療育を知ろう

医療機関での業務やスタッフの対応を見学し、患者さんに合わせた言葉遣いや円滑なコミュニケーションの大切さを実感した。療育の現場では、学校との連携や合理的配慮の難しさを学び、重度心身障害者の家族が抱える時間的制約や将来への不安にも触れた。個々の発達段階に応じた指導が重要であり、「リハビリや学校の通級指導教室での個別対応が有効であると理解した。スタッフが子どもの成長を温かく見守り、共に喜ぶ姿が印象に残った。

日 程：2024/8月中の9日間

参加学生：2名

活動場所：島田療育センターはちおうじ



島田療育センターはちおうじ

A5. 小学生向け「考えるもの作り教室」でのティーチャー体験 -木工教室を盛り上げよう！-

「考えるもの作り教室」で先生役を務め、小学生に木工を教える活動に参加した。お祭りなどで使えるオリジナルベンチの製作を指導し、子どもたちが自分の発想を形にする過程をサポートした。また、この活動を多くの人に知ってもらうため、区のホームページ掲載用のポスター作成にも携わった。異なる世代との交流を通じて、相手に合わせた教え方や伝え方の工夫を学ぶことができた。

日 程：2024/8/26(土)-8/27(日)

参加学生：1名

活動場所：いたばし総合ボランティアセンター

備 考：過去の作品集：

<https://www.facebook.com/photo/?fbid=118537797811373&set=pcb.118537871144699>

<https://www.facebook.com/photo/?fbid=118537844478035&set=pcb.118537871144699>



作成したポスター

A6. 環境 DNA を用いた魚類調査プロジェクト

千葉県九十九里町片貝海水浴場で、海水を採取し濾過して環境 DNA をカートリッジに回収した。波や防潮堤の影響で採取地点に近づくのが難しく、作業は予想以上に時間と労力を要した。小さなカートリッジに大量の水を濃縮できる点に驚き、調査記録用紙を通して海に多様な環境があることに気づいた。環境 DNA 解析の難しさと可能性を体感し、今後は土壌や河川への応用にも挑戦したいと考えている。

日 程：2024/8月-9月

参加学生：4名

活動場所：富山県朝日町・千葉県九十九里浜

備 考：アースウォッチ・ジャパン：

<https://www.earthwatch.jp/>

<https://www.earthwatch.jp/?product=edna>



調査地

A7. ふじのくにの里山 - 植物と昆虫のつながり

里山に関する講義を受けた後、日中や夜間に昆虫採集を行い、その後、採取した昆虫の分類と標本作成を行った。調査では外来種や温暖化の影響がみられ、授業で学んだ生物多様性の危機を現場で実感できた。日照条件や地形により生息する昆虫が異なるなど、里山のモザイク的構造も理解できた。昆虫の知識が乏しかったが、他の参加者から教わりながら楽しく学ぶことができた。フィールドとラボを組み合わせる活動を今後も続けたいと感じた。

日 程：2024/8/24(土)-8/25(日)

参加学生：1名

活動場所：ふじのくに地球環境史ミュージアム周辺の雑木林（静岡県静岡市）

備 考：アースウォッチ・ジャパン：

<https://www.earthwatch.jp/>

<https://www.earthwatch.jp/?product=fujimuseum>



生き物の調査

A8. 長浜曳山まつり 秋の曳山巡行体験事業

初日は曳山博物館で翌日の交替式に向けた準備を行い、展示パネルの交換や床板の撤去などの作業を手伝った。2日目は実際に曳山を引き、午前に鳳凰山、午後に翁山の曳山を曳いた。夜は町の人々、市長、副知事らと交流会に参加し、地域の温かさを感じた。3日目は長浜城や曳山博物館などを巡り、豊国神社の祭りや米原の子ども歌舞伎を見学した。曳山を通じて地域の強い結束と伝統を守る人々の努力を実感し、文化継承の大切さを学んだ。

日 程：2024/10/18(金)-10/20(日)

参加学生：4名

活動場所：長浜市曳山博物館

備 考：長浜市曳山博物館：<https://nagahama-hikiyama.or.jp/>



曳山巡行

A9. ポピズナーサリースクール東大本郷さくらにおける乳幼児保育体験

保育士の方々のサポートのもと、授乳やおむつ替え、絵本の読み聞かせなど様々な業務に取り組み、充実した体験ができた。活動を通して、子どもの成長の早さや育児現場の大変さと温かさを実感した。遊びや遠足、体操、食事、昼寝の補助では、安全に過ごせるよう目を配る役割を担い、睡眠時の見守りや食事での細やかな配慮も学んだ。最初は距離があった子どもたちが次第に懐いてくれたことが嬉しく、日々の関わりを通して、子どもたちとの信頼や絆の大切さを肌で感じた。今後も子どもと関わる経験を大切にしていきたい。

日 程：2024/7/1(月)-2025/1/31(金) の間で3-4日間

参加学生：4名

活動場所：ポピズナーサリースクール東大本郷さくら

備 考：

ジェンダー・エクイティ推進オフィス：<https://www.u-tokyo.ac.jp/kyodo-sankaku/ja/index.html>

ポピズナーサリースクール東大本郷さくら：https://www.poppins.co.jp/educare/room-search/todai_sakura/

A10. 高校魅力化プロジェクト

～課題先進地域の離島・中山間地域における学習支援と課題発見・解決、価値創造～

島根県海士町の公営塾「隠岐島学習センター」でスタッフとして活動した。高校生への学習指導や進路相談、大学提出書類の添削、集団授業の企画運営を担当した。特に定期テスト前の集団授業「キックオフ会」では、勉強意欲を高めるためのワークシートを作成し、当日の運営にも携わった。また、生徒の将来設計を支援する「夢ゼミ」に参加し、生徒と地域の大人との対話を促した。面接対策や資料添削を通じて個別支援も行い、生徒の主体的な学びと成長を間近で感じることができた。

日 程：2024/8月-9月

参加学生：5名

活動場所：北海道、愛媛県、広島県、島根県等

備 考：

株式会社 Prima Pinguino(高校魅力化プロジェクト主催)：<https://pripin.co.jp/>

高校魅力化プロジェクト：<http://miriyokuka.com>



島根県海士町にて



北海道大空町にて

A11. 工学系日本語教室でのボランティア

工学系日本語教室でボランティアとして活動し、主に日本語を学ぶ留学生のサポートを行った。上級会話クラスに週1回参加し、グループワークの進行や発表への文法・語彙のフィードバックを担当したほか、手本として自ら発表を行うこともあった。また、初級クラスの期末発表準備を手伝い、発表原稿をより自然な日本語に修正する助言もした。授業を通して、文化や考え方の違いに触れつつ、教育現場での実践的な経験を積み、指導方法やコミュニケーションの工夫を学ぶ貴重な機会となった。

日 程：2024/10月-2025/1月

参加学生：8名

活動場所：東京大学本郷キャンパス工学部8号館

備 考：工学系研究科 国際教育部門 日本語教室

<https://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/activities/volunteer/>

<https://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/>

A12. 能登の里山里海を紡ぐ関係人口創出～FSの継続から能登町の復興へ～

能登町に4回滞在し、地域復興活動に取り組んだ。宇出津地区では、あばれ祭りに参加し、「のと未来カイギ」ではファシリテーターとして地域住民と意見交換を行った。復興の現状を把握するために事業者や住民へのヒアリングも実施し、地域ごとの復興進捗に差があることを実感した。活動を通じて、プロジェクトを進める上でのチームワークの重要性を学び、地域に貢献したいという意識が一層強まった。今後は社会人として、地域創生に関わる活動を継続し、チームワークを通じて得た経験を仕事にも生かしていきたいと考えている。

日 程：2024/7月-2025/2月

参加学生：6名

活動場所：石川県能登町および大学内等

備 考：Instagram：https://www.instagram.com/noto_choice_2022/



あばれ祭り



震災の傷跡が色濃く残る景色

A13. 学術出版の体験的学習

編集部・制作部・営業部での業務見学や企画会議の参加、校正や製本についてのレクチャーを受け、装丁デザインの会議も見学した。出版企画書を作成し、量子コンピュータ関連書籍の企画を最終日に発表して実践的なフィードバックを得た。また、印刷博物館や勁草書房、製本所を訪問し、出版から流通までの全体像を学んだ。編集者の幅広い役割や出版業界の多様な関係者の協働を知り、書籍制作の奥深さを実感した。校正や企画立案の経験は、今後の学業や文章作成に活かしていきたい。

日 程：2024/9/2(月)-9/13(金)

参加学生：3名

活動場所：東京大学出版会

A14. 再生可能エネルギー系ベンチャー企業でのインターン

プログラム開始前に「エネルギーをめぐる旅」を読み、基礎知識を身につけた。宮城県大崎市の太陽光発電所やリサイクルセンターを訪問し、専門家との意見交換やメディア取材に参加した。1週間半のグループワークでは、太陽光冷凍冷蔵設備の導入がフードロス削減や発展途上国の農業に与える影響を調査し、市場規模分析を担当した。調査結果を発表し議論を重ねる中で、国際的視点や課題解決能力を深めた。オンライン主体の活動でも情報共有や議論を積極的にを行い、現地での学びと住民交流は非常に貴重な体験であった。

日 程：2024/9/2(月)-9/13(金)

参加学生：4名

活動場所：東京都港区虎ノ門・宮城県大崎市

備 考：サステナジー株式会社：<https://sustainergy.co.jp/>

A15. 陶板複製名画美術館における学芸員体験

徳島県で街並みや世界の名画を鑑賞し、絵画への理解を深めた。学芸員の方々の工夫した「伝え方」を間近で見て、他人に思いを伝える難しさと重要性を学んだ。多様な参加者やスタッフとの交流も刺激的で、今後の学びや活動に活かせる経験となった。美術専攻ではないものの、美術への関心を再確認し、将来的には何らかの形で美術に関わっていきたいと思う。

日 程：2024/8/23(金)-8/25(日)

参加学生：5名

活動場所：徳島県鳴門市大塚国際美術館



展示品を学ぶ



システィーナホール壁画解説

A16. 農作物なんて自由自在??～植物工場で次世代の食糧生産を考える～

本プログラムは4日間の活動で実施された。初日は農学部生態調和農学機構を訪問し、スマート農業の講義を受け、研究室や実験装置を見学した。2日目はプランテックス社の研究所で施設見学と収穫体験を行い、社員との懇親会を通じて企業の取り組みや理系キャリアについて学んだ。3日目は「植物工場産野菜の人気向上」をテーマにディスカッションとプレゼン資料作成を行い、最終日に同社向けにマーケティング戦略を発表した。これらを通じ、植物工場の技術理解とマーケティング戦略の実践的経験を得た。

日 程：2024/8/2(金)、8/8(金)、9/30(月)

参加学生：4名

活動場所：東京大学生態調和農学機構（附属田無演習林）、
株式会社プランテックス（東京都中央区、神奈川県川崎市）

備 考：東大三四郎会：<https://www.facebook.com/todaisanshiro>

A17. 町長の秘書業務体験！～現役首長と向き合う行政の現場～

滋賀県日野町の行政現場で活動した。初日は町役場で町の概要説明を受け、町長と挨拶を交わした。以降は行政懇談会や地域コーディネーター連絡会議に参加し、地域課題や施策について理解を深めた。また、小学校や建設現場の見学、福井県南越前町との懇談会にも立ち会った。町議員や職員との交流や、EBPM 研修（エビデンスに基づく政策立案研修）ではファシリテーターとして議論をまとめた。最終日には町長や職員の前で学びを総括して発表し、行政活動の現場を体験することで地域運営の実態への理解を深めた。

日 程：2024/8/2(金)-8/9(金)

参加学生：4名

活動場所：滋賀県蒲生郡日野町

備 考：

日野市：<https://www.town.shiga-hino.lg.jp/>

日野市市長：<https://ameblo.jp/horie-kazuhiro/>



町を走る電車



町の夏祭り

A18. 誰も知らない京都を作り出せ！～東大生しかつくりえない旅行プラン@KYOTO～

古民家での食事体験や民泊準備中の家庭訪問を通して地域の現状と課題を学んだ。ローカルフラッグの活動視察では、肥料工場や道の駅、ポップ畑を見学し、和歌山県紀の川市の職員や地域おこし協力隊、町長から観光や地域活性化の取り組みについて話を伺った。近隣の観光地訪問や神楽練習への参加を通して、地域文化にも触れた。最終日には与謝野町の観光協会や区長と昼食を共にし、地域課題に関する意見交換を行った。多様な現場での交流を通して、地域おこしの実態を実感することができた。

日 程：2024/9/3(火)-9/10(火)

参加学生：3名

活動場所：京都府与謝郡与謝野町

備 考：地域産業：https://linktr.ee/asobi_beer

A19. 「好き」だけで終わらせない！～自らの手でファッションの未来を創ろう～

オンワード樫山の各部門で行われている業務内容について学び、新規事業の立案に挑戦した。前半は、社員の方々からマーケティング、MD（マーチャンダイジング）、営業、環境対応など多岐にわたる講義を受け、アパレル業界の仕組みを理解した。後半は、得た知識をもとにグループで新規事業を企画し、若者向けファッションイベント会社の設立をテーマに事業計画を作成した。講義と実践を通じて、ビジネスの構想から発表までを体験する貴重な機会となった。

日 程：2024/9/2(月)-9/6(金)

参加学生：2名

活動場所：東京都内

備 考：オンワード：<https://www.onward.co.jp/>

A20. JICA の国内の現場で国際協力を知る

JICA 東京での研修プログラムに参加し、JICA の業務理解と国際交流の現場を体験した。教師海外研修や短期研修の見学、納涼会の運営補助などを通して、職員の方々や外国人研修員と関わる機会を得た。研修員との対話では、国際協力の現状や課題について直接学ぶことができた。最終日には、体験内容をまとめたプレゼンテーションを行い、資料作成や質疑応答にも積極的に取り組んだ。多様な活動を通じて、国際協力の意義と JICA の役割への理解を深めることができた。

日 程：2024/8/22(木)-8/27(土)

参加学生：2名

活動場所：JICA 東京（渋谷区西原）

備 考：

JICA 東京：<https://www.jica.go.jp/domestic/tokyo/index.html>

JICA インターンシップ：<https://www.jica.go.jp/about/recruit/intern/index.html>



ブレイクタイム



JICA 東京の皆さんと

A21. 未来を指向する地方自治体の活動への参加

町役場や地域の各施設で農業・福祉・教育・地域コミュニティ・観光など多様な分野の担当者や事業者と意見交換を行った。現地での生活を通じて資料だけでは見えない住民間のネットワークや生活意識を感じ取ることができた。最終日には町の課題と解決策について個人発表を行った。短期間で多くの方と関わる中、地域社会の仕組みやコミュニティ再編の必要性を実感した。現地での学びと住民交流は非常に貴重であり、将来の進路や社会貢献への意欲に生かしていきたいと考えている。

日 程：2024/8/6(火) - 8/16(金)

参加学生：5名

活動場所：三重県度会郡玉城町

備 考：玉城町役場：<https://kizuna.town.tamaki.mie.jp/index.html>



浅井農園のクワイ農場見学



研修成果発表会

A22. 気候変動に対応するために「IT による GX」を考えてみよう

初日はマイクロソフト品川本社でオフィスツアーを受け、社員の働き方や事業内容について学んだ。次週のオンライン活動では、GX・AX やサステナビリティの取り組み、課題分析の手法について説明を受け、自分の興味ある企業の取り組みを調べ、課題と新たな施策を考えて発表した。マイクロソフトの「競合しない」ビジネスモデルや幅広い事業展開を知り、社会貢献の大きさを実感した。課題分析の手法も有用で、今後の学びや生活で活かせると感じた。今回の経験により、GX・AX や企業活動への関心が深まり、将来の選択肢を広げる視点を獲得することができた。

日 程：2024/8/2(金)、8/12(月)-8/13(火)

参加学生：10名

活動場所：日本マイクロソフト株式会社品川本社およびオンライン



オフィスツアー

A23. 笑う東大×学ぶ吉本 SDGs 人材交換留学

別府市の町おこしを目的とした周遊型謎解きイベントの企画プログラム

吉本興業所属タレントと協力し、大分県別府市の別府公園で行われた「別府市福祉まつり市民と消防のつどい」内の謎解きイベントを企画・運営した。芸人さんとの打ち合わせや謎の作成、広報・SNS戦略を担当し、参加者を増やすだけでなく、現地に来られない人にも別府を身近に感じてもらえる工夫を行った。プロジェクトを進める中で、相手に依頼する際の態度や計画的な進行、細かな配慮の重要性を学び、チームで大規模イベントを作り上げる経験を得た。日常では経験できない活動を通して多くの気づきを得られ、今後の課外活動や進路選択にも活かせると感じた。

日 程：2024/7/3(水)－11/17(日)

参加学生：6名

活動場所：吉本興業東京本部、大分県別府市



吉本芸人の皆さんと



参加者が挑戦した謎解き

A24. 笑う東大×学ぶ吉本 SDG s 人材交換留学

オリジナルのアナログゲーム制作・PR体験

吉本興業所属タレントと協力し、アナログゲームの企画・制作とPR活動を行った。参加者で原案を出し合い、芸人さんと試遊を重ねて改良し、ルールやデザインを完成させた。完成品はお披露目会で発表し、販促も実施した。制作過程では、ターゲット層や差別化の工夫、価格や箱のサイズなど市場を意識した検討を行った。ゲームを遊んだ人が楽しむ姿を見て手応えを感じるとともに、瞬発的にアイデアを出す難しさも学んだ。何かを作って世に出すという経験をここで体験できたことは非常に良い経験となったので、この過程を忘れることなく実社会でも活動したい。

日 程：2024/7/10(水)－2025/3/18(火)

参加学生：6名

活動場所：吉本興業東京本部、JELLY JELLY CAFE 池袋2号店



お披露目&体験会



「シランティア」発売

A25. 笑う東大×学ぶ吉本 SDG s 人材交換留学

「漫オワークショップ」

NON STYLE 石田さんの講義を受け、相方と漫オネタを作り、本番では50人ほどの観客の前に披露した。プロの芸人さんから講評を受け、漫オ作りの難しさと奥深さを実感した。特に、人を笑わせる方法に正解はなく、相方との価値観を擦り合わせる必要性や、その難しさを学んだ。自分で作ったネタで観客が笑ってくれる喜びを体験できたことは大きな自信となった。笑いには人を前向きにする力があると改めて感じ、今後は人を楽しませる姿勢を日常でも意識していきたい。

日 程：2024/9/2(月)、9/11(水)

参加学生：12名

活動場所：吉本興業東京本部、ヨシモト∞ドーム ステージI



ネタ作り



お披露目ライブ

A26. 笑う東大×学ぶ吉本 SDG s 人材交換留学

芸人×東大生 特別授業 in 周防大島

山口県周防大島町の小学校で、小学6年生を対象に算数・英語・理科・図工・体育の授業を吉本興業の芸人さんと共に実施した。事前打ち合わせや授業資料作成を重ね、本番ではテレビ収録や取材対応も経験。授業内容についてプロから多くの指摘を受け、自分の視点だけでは見えない改善点を学んだ。小学生の反応を見ながら柔軟に対応し、伝えることの難しさや楽しさを実感した。企画運営や現場経験を通じ、視野が広がり、大学生活や課外活動、将来の進路選択にも活かせる貴重な体験であった。

日 程：2024/7/8(月)-11/10(日)

参加学生：8名

活動場所：吉本興業東京本部、山口県周防大島町



アルティメットに挑戦!



参加者全員で記念撮影

A27. 東大蔵元会の蔵で酒造りを体験しよう

日本酒とウイスキーの製造工程を体験した。酒米の洗米や酒母作り、麴の製造、タンクでの糶入れ、醪の温度管理、ラベル貼り、機械の洗浄まで幅広く関わった。またウイスキーの仕込みとして米粉を水に溶かす作業も行った。体力や技術が求められる手作業が多く、一つひとつの作業にこだわりと丁寧さがあることを実感し、酒造りの面白さや奥深さを感じた。IoT活用や経営課題の話も伺い、製造現場のリアルな課題や従業員の工夫を理解できた。今回の体験は、酒文化の理解を深めるとともに、今後の学びや人生に活かしたいと思う。

日 程：2024/7月-2025/3月(蔵によって活動時期が異なる)

参加学生：8名

活動場所：岩手県、福島県、奈良県、栃木県



作業の様子

A29. 岩手県花巻市 Oh はさま! 真夏のぶどう合宿 2024 夏

ぶどうの収穫や選果を中心に農作業を行った。作業後も自分からできることを探し、農家の方や他の参加者と協力して、食事の準備や片付けも行った。ぶどうを収穫する中で、1箱の値段や収穫時期など生産者の生活の実情を実感した。作物は天候に敏感で、順調に育っても高値で売れない現実を知り、能動的に動く姿勢や相手の視点で考える大切さを学んだ。地方の現状や環境問題の重要性にも触れ、将来の進路や学びに活かしたいと感じた。

日 程：2024/9/4(水)-9/7(土)

参加学生：2名

活動場所：岩手県花巻市大迫町

備 考：

花巻市 HP： <https://www.city.hanamaki.iwate.jp/>

まきまき花巻： <http://makimaki-hanamaki.com/>

株式会社エーデルワイン： <https://edelwein.co.jp/>



収穫前のぶどう

A30. どっぷりディープな農業・農村体験 (DDNN)

大豆や人参の雑草取り、大根やりんごの収穫など、幅広い農作業を体験した。雑草取りは長時間の歩行が続き、大根の収穫では中腰作業が多く体力を要した。雨の日には足場が悪く、農業の厳しさを実感した。一方で、農業には経営的視点やリスク管理も欠かせないことを学んだ。地域の方々との交流を通して、雇用維持を重視する人や新しい挑戦を志す人など、多様な価値観に触れることができた。農業人口減少などの課題を感じつつも、人々の温かさや地域の魅力を知る貴重な機会となった。

日 程：2024/8/26(月)-9/3(火)

参加学生：4名

活動場所：青森県西津軽郡深浦町

備 考：

船作興農組合：<http://www.henashi.jp/>

深浦町役場：<https://www.town.fukaura.lg.jp/>

深浦ってどこ？(深浦町観光公式サイト)：<https://fukadoko.jp/>



白神岳登山



収穫した大根

A31. 紀州アメリカ村で学ぶ、地域の過去と未来を考える

アメリカ村でカナダ移民の歴史を学ぶため資料館を訪れ、地域住民や他大学の学生と交流した。地元の祭りの見学や語り部による村内散策、古民家での漆喰塗りなどの作業が印象に残っている。グループでは役割を分担し、アイスブレイクや写真撮影を通じて協力しながら活動した。地域の人々との関わりを通して、三尾地区が抱える過疎化や伝統継承の課題を実感した。

日 程：2024/11/2(土)-11/4(月)

参加学生：9名

活動場所：和歌山県日高郡美浜町三尾地区

備 考：

日高新報：<https://hidakashimpo.co.jp/?p=89315>

アメリカ村：<http://americamura.wakayama.jp/>



三尾のウォーキングマップ



ミーティングの様子

A32. 駒場 II キャンパス学食を通じた生産現場を学ぶワークショップ

農作物や農業機械の見学、帯広百年記念館での学習、地元パン屋や馬車バーでの交流を行った。キャベツの機械収穫に参加し、収穫機上での選別作業も体験した。また、よつ葉乳業や山本忠信商店を訪れ工場を見学し、事業説明を受けた。大規模農業の仕組みや外食産業との関わりを理解するとともに、帯広の食文化を観光資源や商材として活かす方法を考える機会となった。

日 程：2024/9/3(火)-9/5(木)

参加学生：2名

活動場所：駒場リサーチキャンパス学食「ダイニングラボ」、北海道十勝地方

備 考：食堂コマニ：<https://shokudo-komani.com/>



キャベツ畑での収穫体験

A33. 伝統工芸木炭生産技術保存会とともに伝統工芸に必要な駿河炭を焼く

伝統工芸に欠かせない炭について学び、製炭を体験した。岡山城や後樂園を見学して岡山の歴史に触れ、備前長船刀剣の里では刀鍛冶や漆を磨く様子を見学するとともに、研磨炭を使って真鍮を磨く体験も行った。窯で炭を焼き、火起こしや冷却作業を実践する中で、たたら製鉄や植林地の見学を通して、地域の伝統技術と環境保全の関係について学んだ。毎晩の振り返りを通して、体験をより深めることができた。

日 程：2025/3/8(土)-3/12(火)

参加学生：3名

活動場所：長船刀剣博物館および岡山苫田郡県鏡野町富地区



窯の火



薪割り

A34. 持続可能なライフスタイルへの変遷を実現するための

科学的アプローチに基づくフィールド実践体験

里山の厳しい自然環境の中での暮らしを体験し、都市生活とは異なる制約や可能性を実感した。エネルギー効率の視点から環境問題を考える機会となり、自然の恵みを活かして楽しみながら暮らす姿勢は今後の生活の参考になると感じた。環境問題の解決は個人の力だけでは難しいと認識しつつも、この暮らしが食料安全保障に寄与し、楽しさと幸せをもたらすことを実感できた貴重な体験であった。

日 程：1回目 2024/9/14(土)-9/16(月)

2回目 2025/2/8(土)-2/9(日)

参加学生：8名

活動場所：宮城県柴田郡川崎町青根地区（蔵王山麓）



薪割りの後、火を灯す

A35. 伊豆の体験活動 —南伊豆という一地域との連携に学ぶ—

南伊豆で猪肉を使ったソーセージ作りを中心に、地域の方々と交流しながら自然に触れる活動を行った。猪の罠の設置や鹿の処理、ふきのとうの収穫、丸太を切る機械の操作など、多様な体験ができた。猪肉は骨付き肉を解体し、ミンチにして羊腸に詰め、燻製まで行いソーセージを完成させたが、羊腸が破れやすく苦労した。林業体験では薪割りや重機操作を体験し、その薪が軽節工場で使われる様子も観察した。食事は自分たちで準備し、協力して活動した。

日 程：1回目 2025/2/15(土)-2/17(月)

2回目 2025/3/15(土)-3/17(月)

参加学生：4名

活動場所：静岡県賀茂郡南伊豆町毛倉野



猪肉の処理作業の様子



ソーセージ作り

A37. ラムサール条約湿地「宍道湖」・「中海」で水環境と生態系保全を考える

地元の漁師の方々と一緒に漁に出て、自ら魚を捌き、捕まえた魚を味わう体験をした。漁や魚の処理は初めてで、水環境を考えるうえでも学びが多かった。漁師が自ら水質調査を行っていることを知り、たたら製鉄の見学では、山陰の歴史と環境との関わりについて理解を深めた。少人数での活動だったため、現地の人々や市長会とも親しくなり、地域の温かさを感じることができた。全体を通して非常に充実したプログラムであった。

日 程：2024/8/20(火)-8/23(金)

参加学生：4名

活動場所：中海・宍道湖・大山圏域

備 考：

宍道湖漁業協同組合：<http://shinjiko.jp>、

米子水鳥公園：<https://www.yonago-mizutori.com/>

宍道湖グリーンパーク：<https://www.green-f.or.jp/gp/index.html>

島根県宍道湖・中海対策推進室：https://www.pref.shimane.lg.jp/shinjiko_nakaumi/



シジミ漁



宍道湖をボートで移動中

A38. 東大の牧場に行って山羊、豚、牛、馬の世話と乗馬を体験しよう

初日に行われた馬の実習は、馬の世話に慣れることで、他の家畜にも早く慣れることを目的としていた。実際に馬と接する中で恐怖心を克服し、餌が人間も食べられるものであることを知って、動物に合わせた量や栄養管理の難しさを実感した。最終日の牧場見学では搾乳機の耐久性に関心を持ち、機械情報工学専攻として畜産業へのロボット技術の応用に挑戦したいと感じた。また、牛舎の温度管理の改善による温室効果ガスの回収可能性にも興味を持ち、工学的な視点から貢献したいと考えている。多角的な学びを得ることができ、今後の研究への意欲が一層高まった。

日 程：2024/9/9(月)-9/11(水)

参加学生：3名

活動場所：農学生命科学研究科附属牧場（茨城県笠間市）



飼育見学

A40. 北海道の遺跡博物館における学芸員体験と冬のオホーツク文化体験

北海道北見市の常呂遺跡での4日間の実習では、縄文文化・続縄文文化・オホーツク文化・トビニタイ文化・擦文文化・アイヌ文化など、オホーツク海沿岸地域の歴史と文化について学んだ。熊木先生の指導のもと、陳列資料館や埋蔵文化財センターを訪れ、考古学の基礎や発掘資料の整理を体験した。特に、ところ遺跡の館で展示資料を基に一般来館者向けの解説を行い、説明技術を磨くことができた。学芸員体験として写真整理や展示解説も実施し、展示資料への理解を深めた。これらの活動を通じて、古代北海道の文化への理解と考古学の実践的な知識を身につけることができた。

日 程：2025/2/17(月)-2/20(木)

参加学生：5名

活動場所：常呂実習施設、北見市ところ遺跡の森



勾玉づくり



展示解説体験

A41. 森の人になろう – 森と暮らす仕事

都市生活では感じにくい自然の力や、暮らしを支える労力を実感した。薪を使うためには1年がかりの準備が必要であり、普段の便利な生活も多くの人の努力によって支えられていることに気づかされた。癒しの森での落ち葉焚きや自然の恵みに関する話を通じて、手間をかけることの楽しさも感じた。また、異なる専攻の学生や職員の方々と協力して作業をする中で、人とのつながりの大切さを学ぶことができた。自然や人との関わりを改めて考える貴重な体験であった。

日 程：夏の部：2024/8/22(木)-8/23(金)

冬の部：2024/12/21(土)-12/22(日)

参加学生：3名

活動場所：附属演習林富士癒しの森研究所（山梨県南都留郡山中湖村）



夏・観察へ



冬・落葉焚き

A42. 森が社会に貢献する – 持続可能な森づくりへの挑戦 –

演習林職員の皆さんと共に蓄積調査や水文調査、試験地での樹木成長調査を行い、樹種判別や胸高直径の計測、水質測定などを体験した。また、現地検討会に参加し、施業案をめぐる議論に触れることで、森林管理の意思決定の流れを知る手がかりとなった。UAV や GIS を用いた林種区分の見学により、最新技術が森林管理にどのように活かされるか学ぶことができた。調査を通じて地道な作業の大変さを実感すると同時に、職員の皆さんの専門知識や経験の重要性を感じた。現場での学びは今後の研究や森林生態学の理解に生かしていきたい。

日 程：2025/2月-3月

参加学生：3名

活動場所：附属演習林北海道演習林（北海道富良野市）

備 考：北海道演習林：<https://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/hokuen/>



調査・測定

A43. 東大×「街」のない「まち」の地域活性化・観光促進対策とは？

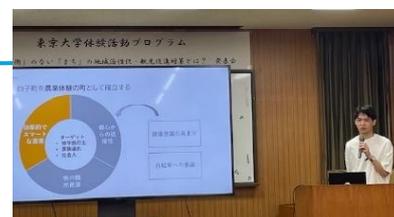
白子町の観光資源について現地調査や住民への聞き取りを行い、町の課題や可能性について考える機会を得た。海岸や川沿いのパブリックスペース、温泉、グリーンハウスなどを巡り、レンタサイクルの導入や住民主体のまちづくりといった観光促進策のアイデアを整理し、町役場関係者やメディアの前で発表した。自由度の高い準備や発表を通して、フィールドワークの重要性やまちづくりの面白さを体験し、今後の進路や研究への示唆を得たように感じる。

日 程：2024/9/11(水)-9/13(金)

参加学生：4名

活動場所：千葉県長生郡白子町

備 考：白子町役場：<https://www.town.shirako.lg.jp/>



成果報告会

A44. 森林・水・土砂の長期モニタリング調査体験 ～世界の水文研究を支える 100 年を全身で感じよう～

赤津演習林で、森林の水文学や観測手法、データ活用について学んだ。林内施設を見学し、毎木調査で樹高や幹の直径を測定、成長データを取得した。水文観測では降雨量や水位を計測し、白坂量水堰で砂出し作業を体験した。また、ドローンで林を空撮し、3D データと現地測定を比較した。日々の施設維持や測定の大変さを実感しつつ、データ収集の仕組みや精度への理解を深めることができた。この経験を通して、理論だけでは分からない現場での取り組みを肌で感じる事ができた。

日 程：2024/9/24(火)-9/27(金)

参加学生：3 名

活動場所：附属演習林生態水文学研究所赤津研究林（愛知県瀬戸市北白坂町）

備 考：附属演習林生態水文学研究所：<https://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/eri/>

A45. 中世の時代が輝く 島根県益田市歴史観光プログラム企画開発プロジェクト

歴史や自然を軸とした観光プログラムを学んだ。市役所の方に案内してもらい、中世の寺社や遺跡、城下町の成り立ちを自転車で巡ることで街の歴史を感じられた。また、地域住民や中学生、地域の活動団体「ユタラボ」の方々と対話し、現地の課題や魅力を実際に体験しながら考えることができた。これらの経験をもとに観光振興のプランを作成し、発表した。現地での学びを通じて、地域創生や観光振興への理解を深めるきっかけとなった。

日 程：2024/9/10(火)-9/13(金)

参加学生：4 名

活動場所：島根県益田市

備 考：

益田市役所：<https://www.city.masuda.lg.jp/index.html>



小浜海岸「衣毘須神社」



万葉公園を散策

A46. 帰還困難区域の「街づくり」を考える。一復興に対する多様な「想い」に触れながら

浪江町、双葉町、大熊町、浜通りの 4 町を訪れ、町役場の方へのヒアリングや現地の教育施設見学を行った。現地を自分の目で見ることで、東京からの調査では得られない具体的な課題や地域の状況を知ることができた。収集した情報を整理し、現地報告会や災害情報学会で発表を行い、研究として形にする難しさや面白さも体験した。今回の経験を通して、被災地の現状を自分事として考える重要性を実感するとともに、今後の学びや進路に活かせる視点を得られたと感じている。

日 程：2024/8/1(木)-8/2(金)、8/26(月)-8/28(水)、9/27(金)-9/29(日)

参加学生：7 名

活動場所：福島県

A47. フル・インクルーシブ教育について、実践する大阪の公立小学校で体験的に学ぶ

大阪府豊中市立南桜塚小学校を訪れ、校長先生や支援担当教員、障害当事者の方々の話を伺いながら、自由見学や授業見学、学習支援を行った。特に、教室に入れない子どもや支援が必要な児童の学校での過ごし方を間近で観察できたことが印象的であった。また、参加者同士での感想共有やディスカッションを通して、フル・インクルーシブ教育の現場での課題や可能性を多角的に学ぶことができた。この経験から、教育現場での子どもたちの多様な状況を理解する重要性や、社会に出てからも相手の事情を察して支援する姿勢の大切さを改めて考える機会になった。

日 程：2025/2/17(月)-2/19(水)

参加学生：13名

活動場所：大阪府豊中市

備 考：

バリアフリー教育開発研究センター：<https://www.p.u-tokyo.ac.jp/cbfe/>

豊中市立南桜塚小学校：<https://www.toyonaka-osa.ed.jp/cms/m-sakur/>

A48. 聖地熊野の歴史文化と自然を体験し、地域振興を考える

和歌山県新宮市を拠点に、熊野本宮大社・那智大社・速玉大社の三社や熊野古道を訪ね、地元の方々や専門家から話を聞きながら熊野の自然・信仰・文化を学んだ。神倉神社で急な石段を登った際には、昔の人々が抱いた自然への畏敬を体感した。また、歴史的景観を守りながら観光を支える地域の取組に触れ、課題と魅力が共存していることを知った。地形や地質、気候と人間の暮らしの関係を実感的に捉え、熊野の歴史と人々の思いに触れる貴重な体験となった。

日 程：2024/8/28(水)-8/31(土)

参加学生：8名

活動場所：和歌山県新宮市、那智勝浦町、田辺市本宮町等



熊野古道



那智の滝

A49. 現地で学ぶ石垣島の現在

石垣島と竹富島での5日間のプログラムを通じ、島の自然や文化、人々の暮らしに直接触れ、環境や地域課題への理解を深めた。地元住民や他の参加者との対話を通じて、自身の価値観や強みに気づくきっかけにもなった。漁網の除去作業や教育イベントの企画などの実践を重ねる中で、多くの学びを得ることができた。普段とは異なる環境での体験は、今後の進路を考えるうえでの視野を広げ、社会に関わる意識を高める機会となった。

日 程：2024/8/5(月)-8/9(金)

参加学生：5名

活動場所：沖縄県石垣島

備 考：

発表資料：<https://drive.google.com/file/d/1b15mUX-Dq6T9a9QQLs5czHAviRPW8p92/view>



野生の山羊



ゴミ拾い活動

A50. 保育園や幼稚園、自治体の子育て支援の取り組みについて知ろう

3日間のプログラムを通じ、保育制度と現場での実践を多角的に学んだ。初日は制度や保育料、第三者評価などの基礎を理解した。2日目は小梅保育園でスイカ栽培などの体験的な活動を見学し、子どもの主体的な学びを支える工夫に感銘を受けた。午後のCo渋谷センターでは、妊娠期から子育てまでを支える相談・交流の仕組みや多文化支援の取り組みを知った。3日目の渋谷保育園では、粘土遊びを通じた表現活動を観察し、保育の教育的意義を実感した。保育を社会全体で支えることの大切さを改めて感じた。

日 程：2024/9/24(火)-9/26(木)

参加学生：4名

活動場所：東京大学本郷キャンパス、渋谷保育園、co渋谷



保育園訪問

A51. 観光地西表島の自然の魅力を存分に堪能し、存分に環境保全の意義について考える

西表島・石垣島での活動では、カヤックやトレッキング、シュノーケリングを通して自然の豊かさと生態系のつながりを肌で感じた。現地の農家や行政職員、環境団体の方々との対話を通じて、観光と農業の両立や、自然環境を守りながら地域を発展させることの難しさを実感した。教育イベントやビーチクリーンにも参加し、人々の暮らしや価値観に触れるなかで、教室では得られない多くの気づきを得た。現地に身を置いて学ぶことの意義を強く感じた。

日 程：2025/3/22(土)-3/26(水)

参加学生：5名

活動場所：沖縄県八重山郡竹富町



西表島の学生の皆さんと



カヤック体験

A52. 花火について学び、花火をデザインする

秋川流域花火大会では、チームでスターマインの構成を考え、自分たちのデザインした花火を打ち上げた。活動では、花火甲子園の運営ボランティアを務めたほか、若松屋の工場や打ち上げ場の見学、線香花火作りも経験した。150発の花火について号数や色、種類、打ち上げ位置を検討する中で、花火の多様な種類や演出の意図、制作に込められた工夫など、これまで気づかなかった点を学ぶことができた。自分の作品が観客の前で打ち上がる様子を見て、計画性やチームでの協力、観客の視点を意識した工夫の大切さを改めて感じた。今回の経験を、今後の学びや生活、将来の活動に生かしていきたい。

日 程：2024/7月-12月

参加学生：8名

活動場所：東京都、愛知県

備 考：

株式会社若松屋：<https://www.wakamatsuya.tv/>

花火甲子園：<https://hanabikoushien.com/>



花火製造現場体験



デザインした花火

A53. 花火について深く学び、花火の魅力を極める

花火鑑賞士試験合格を目指し、9月に4回の花火講座を受講後、秋田県大仙市で「大曲の花火-秋の章-」を鑑賞し、試験に臨んだ。講座では花火師から直接話を聞き、花火の歴史や技術、思いに触れた。大曲では尺玉の迫力を体感し、花火づくりの裏で多くの人が協力していることも学んだ。試験合格を通じて、花火をただ観るのではなく、構造や作り手の工夫に目を向けて味わえるようになった。今後も花火を通じて学びを深め、観察力や協働の経験を自分の活動に活かしていきたい。

日 程：2024/7月-12月

参加学生：8名

活動場所：東京都、秋田県

備 考：日本花火鑑賞士会：<https://hanabi-jafa.jp/>



花火伝統文化継承資料館

A54. 暮らしの中で環境に配慮した物質の循環を考える ～京都府亀岡市～

亀岡市長や関係者からプラスチックごみ削減の取り組みを伺い、市民や企業の活動を見学した。また、こども海ごみ探偵団と保津川のゴミ調査に参加し、ラフティングボードで河原のゴミを拾い種類や量を計測した。保津バッグやacoラップ作り体験、天然記念物アユモドキの生態調査も行った。参加を通して、強い熱意が人や社会を動かすこと、行動する意義、環境意識の広がりを感じた。今後は自分の行動や研究に活かし、社会や身近な環境改善に取り組みたいと感じた。

日 程：2024/9/20(金)-9/22(日)

参加学生：6名

活動場所：京都府亀岡市

備 考：亀岡市役所：<https://www.city.kameoka.kyoto.jp/site/kankyuu/>



保津川のゴミ調査



カードゲームでアユモドキ学習

A55. 起業、事業計画作成に関する講義及びそれらを踏まえたグループワーク

林業に取り組む起業家の方から現状や課題を伺い、その後「森林保全を経済的利益と両立させるには」をテーマに、チームで事業案を考えた。案出しから背景調査、スライド作成、発表まで行い、論理の立て方や意見のまとめ方を学んだ。林業の閉鎖的な現状や補助金依存の課題を理解し、経済性と社会的意義を両立させる事業設計の難しさを体感した。チームでの議論や異なるバックグラウンドの人との協働を通じ、意見を尊重する姿勢や進行・妥協の重要性も学び、今後のグループ活動や問題解決に活かしたいと感じた。

日 程：2024/8/22(木)-8/23(金)

参加学生：6名

活動場所：日本政策投資銀行会議室

備 考：

日本政策投資銀行：<https://www.dbj.jp/>

DBJ スタートアップサポートセンター：<https://ssc.jeri.or.jp/>



プレゼン準備の様子



日本政策投資銀行本店

A56. 未来へ繋ぐ震災伝承

岩手県大槌町で、震災疑似体験ワークショップや座禅体験、林業系 NPO での薪割り体験などを通して、現地の方々の生の声や復興への思いに触れた。語り部や高校生、大学生との交流を通して、震災の教訓を自分ごととして考える重要性や、多様な視点の存在、主体的に地域づくりに関わることの意義を実感した。災害に強いまちづくりや教育の在り方、日常の備えについても考える機会となり、今後の学びや生活、今後の学びや生活、将来の進路に生かしていきたいと感じた。

日 程：2024/8/5(月)-8/9(金)

参加学生：10名

活動場所：岩手県上閉伊郡大槌町

備 考：おらが大槌夢広場：<https://www.facebook.com/oragaotsuchi>



三陸鉄道に乗って大槌町へ



薪割り体験

A57. 増やそう地域を愛する人！地域資源情報発信事業協働体験

三浦市でのプログラムを通して、地域活性化を実現することの難しさを実感した。市民・行政・企業など、多様な立場から課題に向き合う必要があり、特に財源や役割分担を考える過程が印象に残った。市民活動の現状を知ることで、観光と地域づくりの両立や、市民の誇りを高めることの重要性を学んだ。現地の人々との対話や体験を通じて、机上では得られない新たな視点を得ることができた。今回の経験を、今後の就職や地域活動に生かしていきたい。

日 程：2024/8/6(火)-9/3(火)

参加学生：3名

活動場所：神奈川県三浦市民交流センター、三浦市内

備 考：

地域の支え合い仕組みづくり事業：<https://www.miuracc.org/sasaeai/>

ニナイテカレッジ：<https://www.miuracc.org/ninaitte-college/>



現地調査



最終報告

A58. 「クリケット」を通じて世界を知ろう！～クリケットを通じた国際交流～

今回のプログラムを通じて、クリケットのルールや魅力を体験的に学ぶことができた。日本ではまだまだあまり知られていないものの、熱心に活動されている愛好者の方々の存在や、スポーツを通じた国際的なつながりの強さに触れることができた。プレイを通じて参加者同士に連帯感が生まれ、異文化理解にもつながった。また、学外の学生との交流や、スポーツによる地域活性化の可能性など、将来のキャリアや社会課題への視野を広げる貴重な機会となった。

日 程：2024/8/31(土)-12/8(日)

参加学生：6名

活動場所：大宮けんぼグラウンド、東京都昭島市陸上競技場、東京都内

備 考：CrickeTRY：<https://www.cricket.ne.jp/crickeTRY/>



クリケット体験

A59. 中山間地域を見る・感じる・考える

～北海道鷹栖町で、今後の中山間地域・地方創生について考えよう

役場職員の方に案内していただきながら、農業や福祉に関わる現場を見学した。新規就農者への質問やきゅうりの収穫体験を通して、町の暮らしや仕事の実態を学んだ。1週間の滞在を通じて、地域のつながりや生活の魅力、町ならではの特色も肌で感じる事ができた。最終日には、まちづくりに関する意見や提言を発表し、地方創生や地域活動への理解をさらに深めた。この体験は、都市生活にとらわれず将来を考えるうえで、貴重な経験となった。

日 程：2024/8/16(金)-8/22(木)

参加学生：4名

活動場所：北海道上川郡鷹栖町



チーズ作り体験

A60. 野宿学（雪国編）「雪国でイグルーを自作して一晩過ごしてみよう」

初日はイグルー作りの基本技術を学び、雪のブロックの切り出し方や積み方を練習した。2日目には自分のイグルーを作り、そこで一晩過ごした。3日目は雪上ハイキングで、かんじきを使った散歩を体験。作業中には何度かイグルーが崩れたが、自力で寝床を確保できたことに達成感を得た。食事の準備や荷物運搬も参加者と協力して行い、雪の資源を使った環境負荷の少ない生活を体験する中で、自然との共生について考える機会となった。

日 程：2025/2/15(土)-2/17(月)

参加学生：8名

活動場所：長野県飯山市 戸狩温泉



イグルー

【海外プログラム】

B1. アラブ首長国連邦の「いま」

アブダビとドバイを訪問し、UAEの企業・大学・国際機関を巡った。ジャパン石油、MUFU、JBICなどの日系企業や、Khalifa大学での海洋発電・宇宙探査研究に触れ、質疑応答や研究室見学を通して専門知識を広げた。自由時間にはシェイクザイドグランドモスクや地元のモスクを訪れ、アザーンを聞くなどイスラム文化を体験した。さらに、UAE赤門会の案内付きツアーにより現地事情や文化理解も深まり、学びと刺激に満ちた10日間となった。

日 程：2024/9/6(金)-9/16(月)

参加学生：6名

活動場所：アラブ首長国連邦（アブダビ、ドバイ）

備 考：

東京大学GS+I総括寄付講座：<http://www.gsi.u-tokyo.ac.jp/>

Khalifa University: <http://www.ku.ac.ae/>

UAE University: <https://www.uaeu.ac.ae/en/>



現地散策の様子

B2. サウジアラビア プリンセス・ヌーラ大学 国際交流体験活動

サウジアラビアのプリンセス・ヌーラ大学に1週間滞在し、午前はアラビア語の授業で挨拶や数字、色、家族・学校に関する用語を学んだ。午後は現地学生とe-sportsやハンドクラフト、キャンパスツアーや研究施設見学を通して交流した。リヤド周辺の観光地や遺跡を訪れ、休日にはモールや砂漠のアクティビティにも参加した。現地学生との交流を通じて文化や生活習慣、宗教の影響を体感し、多様な価値観や教育・ジェンダーに関する新たな知見を得る貴重な経験となった。

日 程：①2024/8/3(土)-8/17(土)

②2024/8/17(土)-8/31(土)

③2024/8/31(土)-9/14(土)

参加学生：7名

活動場所：サウジアラビア、リヤド

備 考：プリンセス・ヌーラ大学：<http://www.pnu.edu.sa/en/Pages/Home.aspx>

太陽光寄付講座：<https://www.gsi.u-tokyo.ac.jp/>



ラクダ乗り体験



現地のマーケットにて

B3. Sustainable agriculture experience at Organic Farm(USA)

農場ホームステイで、雑草抜き、収穫、種まき、コンポスト（堆肥）の手入れなどのオーガニック農作業に毎日取り組んだ。木曜にはマーケット運営補助も行い、作物の成長や収穫の難しさを実感した。農作業の大変さを体感するとともに、週末にはニューヨークやプリンストンを訪れ、多様な人々と交流し、英語で協働する中で異文化理解も深めた。実践的な経験と観光を通して、充実した日々を過ごした。

日 程：①2024/8/3(土)-8/17(土)②2024/8/17(土)-8/31(土)③2024/8/31(土)-9/14(土)

参加学生：7名

活動場所：アメリカ合衆国・Orchard Farm Organics

備 考：Orchard Farm Organics：<https://www.orchardfarmorganics.org/>

B4. シリコンバレーハイテク企業社員の生の声を聞く国際交流体験

シリコンバレーに10日間滞在し、OBOGを中心に多様な方々と面会し、現地で出会った日本人や地元の方々とも交流した。事前にアポイントを取り、キャリア形成や日米の働き方の違いについて話を聞き、企業訪問やラボ見学、ネットワーキングイベントの運営補助にも参加した。スタートアップの事業展開や資金調達の仕組みを学び、アメリカでの大学院進学にも関心を深めた。多様な人々との出会いを通じ、今後のキャリアを考えるきっかけとなった。

日 程：2024/8/31(土)-9/7(土)

参加学生：10名

活動場所：アメリカ合衆国



企業訪問

B5. インドに向けて日本の魅力を発信一日印学術交流推進活動サポートと学生交流

デリー、ブッダガヤ、ヴァラナシを巡り、各地で現地大学生や村の子どもたちと交流した。デリー大学やバラナシ・ヒンドゥー大学では日本語を学ぶ学生と学生生活や文化について意見交換し、相互に学びを得た。ブッダガヤではスジャータ村の学校や病院、郊外のダリット向け学校を視察し、教育の重要性や貧困の現状を肌で感じた。各地の寺院、仏跡、博物館を訪問し、宗教や歴史にも触れた。手での食事体験や現地の食文化も体験し、文化的理解と自己の視野の拡大につながった。

日 程：2024/9/9(月)-9/16(月)

参加学生：11名

活動場所：インド（デリー、ヴァラナシなど各地）



現地の子どもたちと



大学訪問

B6. インド工科大学マドラス校での学生交流と文化体験活動

-日本語教育ワークショップ・企業訪問を通して-

インドの多様性や急速な経済成長の一方で残る課題を、現地訪問を通じて肌で感じることができた。インド工科大学の学生やJICA職員と交流し、教育・技術・人材・貧困などの多面的な課題と可能性に触れ、インドへの理解が深まった。日本では得られない視点を得たことで、今後の研究やキャリアにおいてインドを意識するようになった。参加者や現地の人々との出会いも貴重で、挑戦する姿勢の重要性を改めて実感した。

日 程：2025/2/16(日)-2/23(土)

参加学生：8名

活動場所：インド（マドラス周辺、ニューデリー）

備 考：

工学系研究科日本語教育部門：<http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/>

インド工科大学マドラス校：<https://www.iitm.ac.in/>



文化交流



ラボ見学

B7. シンガポールでビジネスを学んでみよう

シンガポールの日本大使館や現地・進出日系企業など18社を訪問し、各企業のビジネス内容や現地で働く様子を学んだ。事前調査や質問を通じて担当者と深く議論し、海外でのキャリア形成や企業の特徴、東南アジア経済の動向について理解を深めた。最終日には学んだことをプレゼンテーションで発表した。訪問を通じて、多文化共生社会の実際や計画的な都市運営、教育制度、サステナビリティへの取り組みなど、シンガポールの深い側面に触れることができ、海外で働くことへの理解と関心が大きく広がった。

日 程：2024/8/31(土)-9/8(日)

参加学生：8名

活動場所：シンガポール

備 考：シンガポール淡青会：<https://tanseikai.sg/>



企業訪問



法律事務所訪問

B8. 中国・海南島の自然保護区管理を知る

海南島で熱帯雨林やマングローブの生態、森林再生の手法について学んだ。伐採や開発で失われた森を、外来種で土壌を整えた後に在来種を導入して再生していることを現地で知った。海南大学の学生や地域の人々と交流し、中国語や英語での会話を通じて異文化理解を深めた。ゴム林や原生林の見学、バードウォッチング、鉱山修復現場の視察、石梅湾ビーチや三亚キャンパス訪問など、多様な活動を経験した。自然保護の意義を実感し、短期間ながら多くの学びを得た貴重な体験となった。

日 程：2024/8/4(日)-8/11(日)

参加学生：13名

活動場所：中国・海南省

備 考：海南大学林学院：<https://hd.hainanu.edu.cn/linxue/>



マングローブの生態を学ぶ

B9. 英国ロンドン、海外で働くとは

ロンドンの企業や日本大使館、国際機関、オックスフォード大学を訪問した。現地で働く東京大学のOB・OGや学生から直接話を聞き、海外での働き方やキャリア選択の実際を学んだ。企業訪問では日系駐在員の生活や働き方を知り、オックスフォードでは日本人学生との交流や街の案内を通じて多くの刺激を受けた。各訪問先でのディスカッションやレクチャーを通じて、海外で働くことへの理解が深まり、進路や英語学習への意欲が高まった。海外でのキャリアをより具体的に描けるようになった貴重な経験であった。

日 程：2025/2/17(月)-2/21(金)

参加学生：9名

活動場所：英国・ロンドン周辺

備 考：英国赤門学友会：<https://note.com/ukakamon/>



大学訪問



企業訪問

B10. 台湾を知る、台湾近代史へのご招待

台湾の歴史と文化を学ぶため、台北・高雄・屏東・台南など各地の博物館や史跡を訪問した。十三行博物館や紅毛城、北投温泉博物館では台湾の多様な文化を学び、牡丹社事件や原住民文化など歴史の現場を巡った。糖工場やゼーランディア城、228 事件記念館の見学を通じて、台湾の統治史と社会の変遷を実感した。さらに、烏山頭ダムや台湾大学での交流を通じて現地の生活や日本統治時代の影響を理解し、歴史を超えた文化のつながりを感じた。将来や日本文化への関心を深める貴重な経験となった。

日 程：2024/9/18(水)-9/27(金)

参加学生：15 名

活動場所：台湾



台北 101 にて



歴史的スポットを巡る

B11. オーストラリア最高峰のリハビリ医療（脳挫傷・脊椎損傷）見学・体験

オーストラリアのリハビリテーション専門病院 Royal Rehab で1週間、医療現場を見学した。ミーティングや外来診察、回診、理学療法に立ち会い、車椅子の使い方や車椅子スポーツにも参加した。リハビリ専門スタッフの指導のもと、処置のサポートや患者・スタッフとのコミュニケーションを経験し、脊髄損傷や脳挫傷の慢性管理について学んだ。オーストラリアでは職員と患者がファーストネームで呼び合い親密な関係を築いており、日本との文化の違いを実感した。この経験を通じ、病院実習や初期研修での患者対応を改善し、将来リハビリ科や神経内科の臨床経験に活かしたいと考える。

日 程：2024/8/19(月)-8/23(金)

参加学生：2 名

活動場所：オーストラリア

備 考：Royal Rehab：<https://royalrehab-ryde.com.au/public-rehab-services/>



お世話になった先生と

B12. 中国訪問 + キャンパスツアーと学生交流

北京と上海で計9泊10日、大学や企業、大使館などを訪問した。北京では清華大学や日本大使館、三菱商事など、上海では復旦大学や三井不動産などを訪れ、現地のスタッフや学生との交流、質疑応答を通して多くを学んだ。訪問や観光の計画・手配を自分たちで行ったため、中国語を使う機会が多く、語学力の向上を実感した。現地で働く日本人や学生との対話を通じて、中国の経済や社会の実態を自分の目で確かめることができた。文化や価値観の違いに直接触れる中で、自分の視野が広がり、今後の進路を考える上でも貴重な経験となった。

日 程：2025/3/3(月)-3/12(水)

参加学生：8 名

活動場所：中国・北京市、上海市



北京大学訪問



企業訪問

B13. 芸術の都フィレンツェで文化財保護を学ぶ

プログラムを通じ、美術品や建築の実物に触れる重要性と難しさを実感した。特にミケランジェロの階段や修復現場を見学できたことは貴重で、普段立ち入れない場所で学べたことが大きな成果である。西洋美術や建築、音楽など幅広い分野に触れ、知識や関心を深めることができた。また、現地の学生や専門家との交流や展示空間の体験を通して、学問への意欲を高める機会となった。単なる観光では得られない経験であり、今後の学びや研究に大いに役立つ内容であった。

日 程：2024/9/13(土)-9/23(火)

参加学生：6名

活動場所：イタリア・フィレンツェ



郊外を移動中



作品について説明を受ける

B14. スイスにある国際機関、研究機関、企業等を知る

スイスのダボス、チューリッヒ、ジュネーブで1週間、国立研究所、企業、再保険会社、国際機関などを訪問した。雪崩研究や放射線計測、セメント工場の環境・DX取り組み、再保険の仕組みについて学び、WTO、赤十字、CERN、UNHCR、WHO、WIPOなどで現場の説明や議論に参加した。質疑応答を通して国際社会の課題や各国の利害、国際機関の役割、環境問題への対応を理解した。現地で働く日本人や他参加者との交流から、多様なキャリアや専門性の考え方を学び、国際機関での活動や大学院進学に向けた進路を具体的に考える契機となった。

日 程：2024/9/9(月)-9/13(金)

参加学生：15名

活動場所：スイス



企業訪問



在ジュネーブ国際機関日本政府代表部を訪問

B15. ハーバード大学医学部研究室の訪問・ディスカッション

ボストンでの生活や研究環境を体感し、現地の研究者や多様なバックグラウンドを持つ参加者と交流した。英語での質疑応答やディスカッションを通じ、海外で働く具体的なイメージやキャリア形成の道筋を得ることができた。留学や海外での研究・臨床の準備の必要性を実感し、自分の目標を明確にすることができた。将来のキャリアに対する考え方が変わり、妥協せずにやりたいことを追求する意欲が高まった。この貴重な経験を今後の努力に活かしていきたいと考える。

日 程：2024/8/9(金)-8/18(日)

参加学生：7名

活動場所：アメリカ合衆国・ボストン

備 考：The Umemori Lab (参考)：<https://umemorilab.wordpress.com>



ハーバード大学医学大学院にて



訪問先ラボへ移動中

B16. ケニアスタディーツアー ～リアルなアフリカを学び楽しみ考える～

日本大使館への訪問や、現地の幼稚園・小中学校・職業訓練所での生徒や先生、運営スタッフとの交流を行った。地域支援団体の施設も訪れ、建設された学校や産科病棟の運営について学んだ。マサイ・ビレッジやナンディ郡の茶農園、アンボセリ国立公園でのサファリ、ジラフセンターでのキリンの餌やりなど、自然や文化、産業にも触れた。現地でしか味わえない新鮮な体験の数々は、学生時代の大きな財産となった。

日 程：2024//9/11(水)-9/20(金)

参加学生：8名

活動場所：ケニア（ナイロビ、キスム、ロイトキトクを含む各地）



マサイ・ビレッジ



お茶工場の見学

B17. シドニーとメルボルンでビジネスを学んでみよう

シドニーとメルボルンで大学、企業、リハビリ施設、日本領事館などを訪問した。シドニー大学やマッコーリー大学では研究設備や医学部設立に関する説明を受け、実験や研究内容を見学した。三井住友銀行、三井物産、法律事務所、保険会社では現地事業や働き方、経済状況について学んだ。Tooheys Brewery や Royal Rehab では製造工程や医療制度を体験し、トヨタや JPower では水素エネルギー事業を見学した。これらの活動を通じ、オーストラリアの文化や企業・組織運営の特色を実感し、海外でのキャリアや留学への関心が高まった。

日 程：2024/8/21(水)-8/27(火)

参加学生：11名

活動場所：オーストラリア



大学訪問



工場見学の様子

B18. フィリピンで国際協力を考える～新興国におけるビジネス・政策の現場を訪ねる

フィリピン進出の日本企業や政府機関、現地企業・機関を訪問し、それぞれの事業や社会的役割、国際協力の実際について学んだ。清水建設の地下鉄建設現場や現地大学、政府機関の見学を通じ、制度や社会の仕組みを肌で理解したほか、現地職員や日系企業関係者の日本との関わりに対する熱意や協力的な姿勢を実感できた。フィリピン赤門会の総会や卒業生との交流では、多様な関わり方やキャリアの在り方に触れ、国際的なキャリアの可能性を広げる貴重な経験となった。今回の経験を通じ、将来どのように国際協力や海外でのキャリアに関わるか、具体的に考える指針を得ることができた。

日 程：2025/3/4(火)-3/8(土)

参加学生：9名

活動場所：フィリピン



地域コミュニティの視察



地下鉄建設事業の視察

B19. スウェーデン王立工科大学(KTH)・ケンブリッジ大学での異文化理解体験活動

-学生交流と企業訪問を通して-

スウェーデン王立工科大学（KTH）で日本語授業のサポートやスウェーデン語・英語・ポリマー関連の授業に参加し、ラボやキャンパスを見学した。Language Caféや自由時間を通じ、現地学生や日本人留学生と交流した。イギリスのケンブリッジ大学では工学部施設やカレッジを見学し、文化授業やパンティング、フォーマルディナーを体験した。日本と異なる教育・文化・生活環境に触れ、留学生活や海外の大学環境を実感できた。

日 程：2024/9/10(火)-9/20(金)

参加学生：8名

活動場所：スウェーデン、イギリス

備 考：

工学系研究科日本語教育部門：<http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/>

スウェーデン王立工科大学：<http://www.kth.se/>



ケンブリッジ大学



ストックホルムの街を散策

B20. スタンフォード大学とシリコンバレー体験訪問

Apple や Google、Meta、Intel Museum、スタンフォード大学の研究室や SLAC 粒子加速器、NASA 飛行機展示場、Computer History Museum を訪れた。企業や研究室では事業内容や研究内容、キャリアパスについて質問し、現地でしか得られない情報を積極的に吸収した。Google では社員の方から具体的な業務や入社準備の助言を受け、スタンフォード大学では教授や学生と交流した。都市観光や追加訪問も通じて現地の生活や文化を肌で感じ、今回の体験は将来の学びや進路を考えるうえで、貴重な経験となった。

日 程：2024/8/12(月)-8/18(日)

参加学生：6名

活動場所：アメリカ合衆国



カンター美術館の前で

B21. ベトナムを知れば、日本の将来が見えてくる！～ハノイの学生・企業等との交流～

ハノイとホーチミンに滞在し、日系企業や団体を訪問した。会計事務所、建設会社、商社、弁護士事務所、工業団地、JICA、大使館など、多様な業種の方々から事業内容やベトナムでの働き方について話を伺った。社内や現場のツアー、授業見学もあり、実際の仕事の様子を間近で見ることができた。現地の大学ではハノイ法科大学や日越大学の学生とディスカッションや食事を通して交流し、日本語や英語で積極的に意見を交わした。最終日にはベトナム赤門会の方々との懇親会もあり、現地の人々の温かさに触れた。業界や職種への理解が深まり、今後の進路を考えるうえで大きなヒントを得られた。

日 程：[ハノイ]2024/8/19(月)～8/24(土)

[ホーチミン]2024/8/26(月)～8/31(土)

参加学生：15名

活動場所：ベトナム



日越大学を訪問



NH VILLAGE ARCHITECTS

B22. Tokyo Oxford Programme of Summer (TOPS 2024)

オックスフォード、ケンブリッジ、エディンバラの3都市に滞在し、西洋古典学と法学に関する講義やチュートリアルを受けた。ロンドンでは裁判所や弁護士事務所を訪問し、英語でのプレゼン発表やエッセイ提出も行った。約1か月の共同生活を通じて、他大学の学生と学問的交流を深めた。専攻分野である西洋古典学では、オックスフォードとエディンバラで学会発表を行い、世界的研究者と議論する貴重な機会を得た。イギリスの大学の歴史や教育システムを直接体験し、日本では得られない学びと刺激に満ちた時間であった。

日 程：2024/8/4(日)-9/1(日)

参加学生：16名

活動場所：英国・オックスフォード、ケンブリッジ、エディンバラ周辺

備 考：

オックスフォード大学 ジーザス・コレッジ：<https://www.jesus.ox.ac.uk/>

Mayer Brown：<https://www.mayerbrown.com/en>

PwC：<https://www.pwc.co.uk/>



ザ・グレート・ホール



ケンブリッジ大学

B23. アメリカで仕事をする事の素晴らしさとチャレンジを、アメリカのハートランドであるシカゴと国際都市ワシントン訪問を通して多角的に探ろう

シカゴとワシントンDCを訪問し、日米の公的機関、企業、大学で活躍する東京大学OBOGや現地の方々から、アメリカでの働き方やキャリア形成について話を伺った。訪問先では業務内容や日米の文化・働き方の違い、実体験に基づくアドバイスを聞き、英語での交流や懇親会を通じて個人的な相談や意見交換も行った。特にネットワークの重要性や積極的に挑戦する姿勢の大切さを学び、自分の将来や目標を具体的に考える契機となった。アメリカの文化や職場環境を直接体験でき、専門外の分野への関心も広がった、非常に刺激的で充実したプログラムであった。

日 程：2024/8/20(火)-8/28(水)

参加学生：11名

活動場所：アメリカ合衆国



シカゴ大学にて

B24. ニューヨークで働くこと

企業、国際機関、法律事務所を訪問し、質疑応答やディスカッションを通じて現地での働き方やキャリアパスを学んだ。外資系企業、MBA、アカデミアなど多様なキャリアの具体的なステップを知り、現地で活躍する卒業生や専門家のお話を直接聞くことで、国際的なキャリアの可能性がより明確になった。今後は英語力や専門性を高め、得たネットワークを活かして具体的な行動に結びつけたい。

日 程：2024/8/26(月)-8/30(金)

参加学生：8名

活動場所：アメリカ合衆国



NY証券取引所を訪問



タイムズスクエアにて

【研究室プログラム】

C1. システムデザイン演習：カーボンニュートラル国際海運システムのデザイン

プログラミングやマルチエージェントシミュレーションの基礎を学び、シミュレーター作成を通じて研究の流れを体験した。学会参加や研究室交流で理系アカデミアの雰囲気や環境問題の最新トピックに触れ、視野が広がった。グループワークでは役割分担や計画の難しさを知り、協力の重要性を実感した。成果発表で分かりやすい説明方法を学び、研究への意欲が高まった。この経験は今後の進路選択や専門分野の理解に役立つと考える。

日 程：2024/9/17(火)-9/27(金)

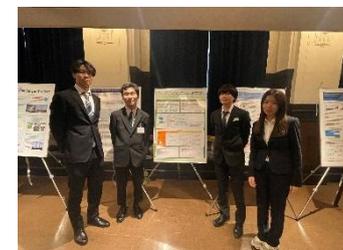
参加学生：4名

活動場所：東京大学柏キャンパス・オンライン（ハイブリッド形式）

備 考：知的システムデザイン分野：<https://is.edu.k.u-tokyo.ac.jp/>



研究活動



学会発表

C2. みんなで翻刻ソソ

「みんなで翻刻」アプリを用いてオンラインでくずし字の翻刻を行った。文字を読むだけでなく、辞書やAIを活用しながら翻刻を進める過程はパズルのようで面白く、普段の学びでは得られない知識や技術を習得できた。活動中にはアプリの改善点についてフィードバックを行い、AIの便利さと限界を体感した。今回の経験を通じて、専門家だけでなく誰でも参加できるプロジェクトの存在を知り、他の活動にも積極的に関わりたいという意欲が湧いた。

日 程：2024/9/10(火)-9/27(金)

参加学生：7名

活動場所：東京大学地震研究所・オンライン（ハイブリッド形式）



古文書を読んでいる様子

C3. DO-IT Japan(Diversity, Opportunities, Internetworking and Technology Japan)2024・

夏季プログラムへの参加

DO-IT Japan 2024 夏季プログラムの小学生向けテクノロジーコースを見学した。大学生チューターとして小学生のテクノロジー活用を部分的に支援した。児童の個別ニーズに応じて機器操作やソフトウェア利用を補助し、学習を促進した。支援を通じて、児童が主体的に課題解決に取り組む姿を間近で見られ、教育支援の実際を体験する貴重な機会となった。

日 程：2024/8/4(日)-8/8(木)

参加学生：1名

活動場所：東京大学先端科学技術研究センター、日本マイクロソフト株式会社品川本社

C4. 先端の蛍光イメージング技術を用いた脳科学・神経科学研究体験

最先端の研究技術を実際に体験し、丁寧な解説を受けながら操作することで、研究の基礎や意義を理解できた。画像解析や統計量の活用、1分子蛍光技術など高度な実験手法を学び、試行錯誤の過程や多分野の知識習得の重要性に気づいた。研究室の温かい雰囲気の中で初めての研究体験を楽しみ、目的を持って取り組む研究の楽しさを実感した。この経験は、進学先の研究室選びや今後の研究活動に生かしていきたい。

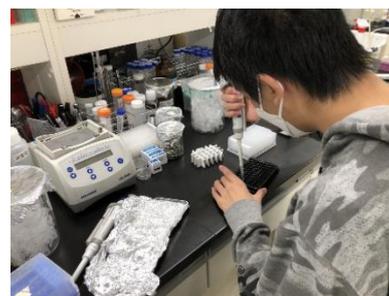
日 程：2024/8/13(火)-8/26(月)

参加学生：3名

活動場所：東京大学医学部教育研究棟

備 考：東京大学大学院医学系研究科 機能生物学専攻 細胞分子薬理学分野：

<https://www.pharmacol.m.u-tokyo.ac.jp/>



実験に取り組む様子

C5. 環境調和型技術としての超臨界水を学ぶ

柏キャンパスの研究室にて、超臨界水酸化反応による廃液（メタノール）の分解および、超臨界水を用いた難溶解性物質の可溶化実験を行った。試薬の調製や実験機器の操作、TOC分析やガスクロマトグラフによる定量分析を担当し、微細藻類の顕微鏡観察も併せて実施した。実験準備から結果解析まで一連の過程を経験し、授業で得た知識を活かして作業を円滑に進めることができた。効率的な実験の進行と結果の精度向上を意識して取り組み、研究活動の流れを実践的に学ぶ機会となった。

日 程：2024/8/29(木)-8/30(金)、9/4(水)-9/5(木)

参加学生：3名

活動場所：東京大学柏キャンパス新領域創成科学研究科（新領域環境棟）



研究室の様子

C6. いちばん近い演習林で樹木調査を体験しよう

田無演習林にて、樹木の胸高直径や樹高の測定、枯れ枝の除去、薪割りなどの森林管理実習に参加した。夏と秋の2回に分けて活動し、機材を用いた薪割りや投げ縄による枯れ枝除去、高所の枝折りなど、多様な作業を体験した。初めて扱う道具も多く、安全に配慮しながら演習林管理の実務を学んだ。これらの活動を通じて、都市近郊林の管理技術や現場での実践的な知識を身につけることができた。

日 程：[夏]2024/8/27(火)-8/28(水)、9/4(水)-9/5(木)

[秋]2024/11/30(土)-12/1(日)

参加学生：4名

活動場所：農学生命科学研究科附属演習林田無演習林



樹木測定

C7. 「医の知」に触れるー手術とは何か？ 体内臓器を探ってみましょう！

手術着を着用して手術室に入り、実際の外科手術を見学した。医師の方々から手術の流れや使用する道具、医療機器について詳しく説明を受け、特に手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いた高度な技術に強く印象を受けた。手術は長時間に及んだが、一つ一つの動作が正確で無駄がなく、医師の高い集中力と技術力を間近で感じた。普段は入ることのできない手術室での見学を通して、医学の最前線と医療の意義を実感する貴重な経験となった。

日 程：2024/7/31(火)-8/2(木)

参加学生：4名

活動場所：東京大学医学部附属病院



見学先の病院前にて

C8. 脳・身体と精神のシステム論的研究への誘い

運動単位の発火頻度を調べる実験に参加し、メトロノームのリズムに合わせて指を動かしながら表面筋電位を測定した。既存ソフトウェアを用いてデータを解析し、リズムや被験者による差異を考察した。乳児の運動計測に用いる機器や人形を紹介してもらい、装置について質問する機会もあった。定例ミーティングに参加して発表や議論を見学し、研究の進め方や雰囲気を学んだ。研究が専門的で閉鎖的という印象が変わり、身近で創造的な活動であると実感した。今回の経験を通じ、今後の研究や進路を具体的に考えるきっかけとなった。

日 程：2024/8/1(木)-2025/3/19(水)

参加学生：6名

活動場所：東京大学大学院教育学研究科（教育学部棟）

Ⅲ 体験活動プログラム活動報告会

2025年3月10日（月）、伊藤国際学術研究センター伊藤謝恩ホールにて、体験活動プログラム報告会を開催した。昨年度に引き続き、対面とオンラインを併用し、プログラム参加学生、受入関係者、本学教職員など、国内外から約250名が参加した。

開会は学生スタッフ2名が進行を務め、まず藤井輝夫総長が挨拶を行った。藤井総長は、「学びと社会を結び直す」ことを体現した体験活動プログラムは、2012年の開始以来13年間続く重要な取り組みであると述べた。学生がキャンパス外で多様な経験を重ねることは、次の学びへとつながる貴重な機会であり、この活動を通じて東京大学全体のコミュニティが広がっていくことが期待されると語った。また、多くの学生に貴重な経験の機会を提供してくださった受入関係者への謝意も述べられた。報告会では、学生たちが体験活動を通じて得た成果や気づきを発表し、体験活動の意義への理解を一層深める機会となった。



司会担当の学生スタッフ



藤井総長の挨拶

続いて、体験活動プログラムの発展に顕著な功績のあった団体に感謝の意を表し、その功績をたたえる「特別功労賞」の授与が行われた。今年度は、花巻市大迫総合支所地域振興課様、吉本興業ホールディングス株式会社様、中海・宍道湖・大山圏域市長会様が受賞された。

【特別功労賞授与の様子】



花巻市・かんたはうす運営組合
鈴木 寛太 様



吉本興業ホールディングス株式会社
代表取締役社長 岡本 昭彦 様



中海・宍道湖・大山圏域市長会
松江市長 上定 昭仁 様

続いて、5つのプログラム（「スイスにある国際機関、研究機関、企業等を知る」、「ケニアスタディーツアー ～リアルなアフリカを学び楽しみ考える～」、「長浜曳山まつり 秋の曳山巡行体験事業」、「未来へ繋ぐ震災伝承」、「環境調和型技術としての超臨界水を学ぶ」）に参加した学生が、体験活動から学んだことや将来に生かしたい経験などについて報告した。

学生の報告終了後には、協力いただいた関係者から、学生受入れに関する感想やメッセージが寄せられた。

【発表の様子】



「スイスにある国際機関、研究機関、企業等を知る」



「ケニアスタディーツアー
～リアルなアフリカを学び楽しみ考える～」



「長浜曳山まつり 秋の曳山巡行体験事業」



「未来へ繋ぐ震災伝承」



「環境調和型技術としての超臨界水を学ぶ」

【学生受入れの感想・メッセージ】



スイス東大同窓会
石川 尚 様



長浜市長
浅見 宣義 様



一般社団法人 おらが大槌夢広場
神谷 未生 様



農学生命科学研究科附属演習林
石橋 整司 教授

最後に、津田敦理事・副学長より受入関係者への謝辞が述べられ、報告会は閉会した。今年度の報告会では、9名のプログラム参加学生が司会、受付、写真撮影などの役割を担い、報告会の運営を主体的に行った。このように、学生が運営に関わることで、プログラム関係者に対する感謝の意も示される機会となった。



津田敦理事・副学長の挨拶



発表学生・運営に携わった学生スタッフ

2024年度体験活動プログラム報告会

日時:2025年3月10日(月)14:00~16:00

場所:伊藤国際学術研究センター

伊藤謝恩ホール(本郷キャンパス)

オンライン (Zoom)

式次第

一. 開 会

一. 総長挨拶 **【藤井 輝夫 総長】**

一. 特別功労賞授与

一. 活動報告 (5 プログラム)

- ・ スイスにある国際機関、研究機関、企業等を知る
- ・ ケニアスタディーツアー ～リアルなアフリカを学び楽しみ考える～
- ・ 長浜曳山まつり 秋の曳山巡行体験事業
- ・ 未来へ繋ぐ震災伝承
- ・ 環境調和型技術としての超臨界水を学ぶ

一. 理事挨拶 **【津田 敦 理事・副学長】**

一. 閉 会

《司会》 教養学部前期課程理科二類 2年
教養学部前期課程文科一類 2年

Hands-on Activities 2024 Debriefing Meeting

Date: Monday, March 10, 2025

Time: 14:00 - 16:00

Place: The Iron Gate Memorial Hall
(Hongo Campus)and Online(Zoom)

Opening

Message from the President

【FUJII Teruo , President】

UTokyo Award for Outstanding Contributions to the Hands-on Activities 2024

Presentations

- Learning About the International Organizations, Research Institutions, and Companies in Switzerland
- Kenya Study Tour: Learning, Enjoying, and Reflecting on the Real Africa
- Nagahama Hikiyama Festival: Autumn Float Parade Experience Program
- Passing on the Lessons of the Earthquake to the Future
- Learning About Supercritical Water as an Environmentally Friendly Technology

Message from the Vice President

【TSUDA Atsushi, Vice President】

Close



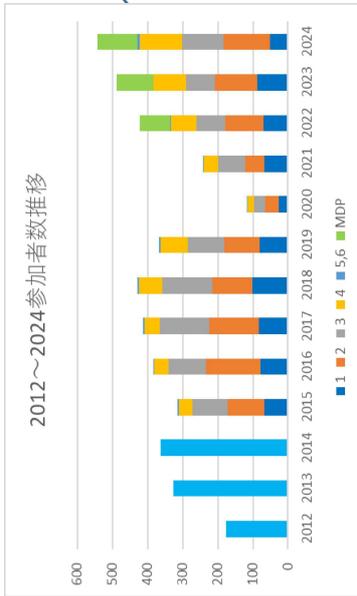
体験活動プログラム



Hands-on Activities

体験活動プログラムとは

東京大学の学部学生及び大学院学生が、今までの生活と異なる文化・価値観に触れることができる体験型教育プログラムです。
 本学独自のプログラムとして、2012年度から実施しています。
 学部と社会を結び直すこのプログラムは、本学が目指す「共感的理解に基づいた対話を通じた信頼の構築」のひとつの実践の形であり、さまざまな体験を通じて多様な人々と出会い、未知なるものを知ろうとすることで、知の探究を進める力を身に付けることをねらいとしています。
 フィールドは国内外問わず、内容はボランティアなどの社会貢献活動、国際交流、農林水産業や地域体験、学内研究室体験など、多岐にわたっています。



卒業生訪問 (アメリカ)



ボランティアなどの社会貢献活動 (石川県能登町)



フィールドワーク (北海道)



就労体験 (奈良県)



スタディツアー (ケニア)



研究室体験 (本郷)

参加学生の感想

- ベトナムを知れば、日本の将来が見えてくる！ベトナムの持つバイタリティを実際に目にする事ができたのは大きな収穫だった。学部・学年バラバラの参加者との交流も非常に刺激的で、参加体験は、社会人になっても活き続ける、自身の重要な軸の一つであると考えた。
- 笑う東大×吉本SDGs人材交換留学「漫才ワークショップ」観客を自分たちの世界観に引き込むには、観客との対話が必要で、そこが1つ難しいポイントだと感じた。観客との対話も、漫才だけでなく普段の発表やプレゼンテーションの場でぜひ生かしていきたいと感じた。

2022年度より、一部企業の参加申請資格を【学部学生のみ→学部学生・大学院学生】に拡充し、より幅広い学生が参加できるようになりました。

<2024年度・プログラム一覧>

海外プログラム

(全24プログラムより一部抜粋)

- ・ニューヨークで働くということ
- ・アラブ酋長国連邦の「いま」
- ・シンガポールでビジネスを学んでみよう
- ・英国ロンドン、海外で働くとは
- ・ベトナムを知れば、日本の将来が見えてくる！

国内プログラム (全56プログラムより一部抜粋)

- ・笑う東大×吉本 SDGs人材交換留学
- ・JICAの国内の現場で国際協力を知る
- ・山羊、豚、牛、馬の世話と乗馬を体験しよう
- ・帰還困難区域の「街づくり」を考える。
- ・日本の伝統文化である花火について知り、花火について考える

研究室プログラム

(全8プログラムより一部抜粋)

- ・みんなで翻訳ソング
- ・先端の単光イメージング技術を用いた脳科学神経科学研究体験



参加学生の活動を発表する報告会は、参加学生有志が同会やスタッフを務めます。

本プログラムは学生受入先の学内外関係者のご協力で成立しています。

東京大学本部社会連携推進課体験活動推進チーム

taikenkatsudou.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp 03-5841-2541/2542

<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h19.html>





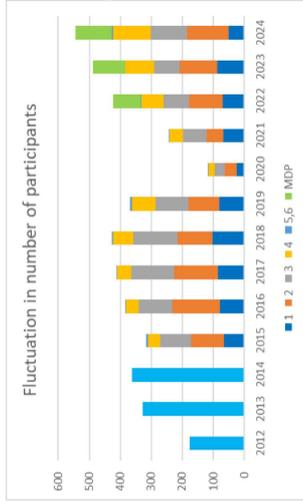
Hands-on Activities



What is "Hands-on Activities"?

The "Hands on Activities" is an experiential education program that allows undergraduate and graduate students of the University of Tokyo experience cultures and values different from those experienced in their lives to date. This program is unique to the University and has been implemented as a non-credit activities since FY2012.

This program, which reconnects learning and society, is one practical form of the "building trust through dialogue based on empathic understanding" that the university aims to achieve. Through a variety of experiences, students will meet diverse people and acquire the ability to advance the quest for knowledge by seeking to know the unknown. The field can be domestic or international, and the content diverse, including voluntary work and other social contribution activities, international exchanges, agriculture, forestry, fishery, local community experiences, and on-campus laboratory experiences.



Selection of programs from AY2024

Selection of the 24 Overseas Programs

- What It Means to Work in New York
- The United Arab Emirates: Now
- Learn about business in Singapore, London, England. What it's like to work abroad
- If you know Vietnam, you can see the future of Japan!

Selection of the 8 Lab-based Programs

- Flip-a-thon with everyone
- Brain Science and Neuroscience Research Experience Using Advanced Fluorescence Imaging Technology

From the 2022 academic year, some of the projects had their application eligibility changed so as to expand from [Undergraduate students only → undergraduate students and graduate students]. We are pleased to announce that we are now able to accept a wider range of students to participate in our events.

Selection of the 56 domestic Programs

- Laughing Todai x Learning Yoshimoto - SDGs Human Resources Exchange Program
- Learn about international cooperation at JICA's domestic sites
- Experience caring for goats, pigs, cows, and horses as well as riding the horses!
- Considering "town development" in difficult-to-return zones.
- Learn and think about fireworks, a traditional Japanese culture

Hands-on Activities



Visiting UTokyo Alumni (USA)



Volunteer experience (Noto Town)



Field work experience (Hokkaido, Japan)



Work experience (Nara, Japan)



Study Tour (Kenya)



Laboratory program (Hongo Campus)

Participants' reports

• If you know Vietnam, you can see the future of Japan!

It was a great experience that I could actually see the vitality of Vietnam. The exchange with participants from different faculties and grades was also very stimulating, and I believe that this experience will be one of the important pillars of my own life, which will continue to be useful even after I enter the workforce.

- Laughing Todai x Learning Yoshimoto - SDGs Human Resources Exchange Program
- I felt that dialogue with the audience is necessary to draw them into our worldview, which is one of the most difficult points. I would like to make use of this dialogue with the audience not only in my comic performances, but also in my daily presentations and presentations.



The debriefing sessions where participants give presentations are run by the students themselves

Hands-on Activities is only possible with the support of the people who accept students.

Hands-on Activities Support Team, Student Support Group, UTokyo

taikenkatsudou@ml.lad.m.u-tokyo.ac.jp 03-5841-2541/2542

<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h19.html>





メモ



2024年度 体験活動プログラム活動報告

作成 2025年11月
編集 東京大学 社会連携部 社会連携推進課 体験活動推進チーム
住所 〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1
電話番号 03-5841-2541/2542
URL <https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h19.html>